

輝け！シン尾花沢中

心ゆたかに たくましく 理想をうたう わが学園

周りの人々の気持ちを想像する～社会常識としてのマナーを考える～

前号では、修学旅行の私の思い出から「ルール」について述べました。「ルール」とは「守らなければならない規則・決まりごと」です。そのため、「ルール」を破ると「罰・ペナルティー」などが科せられます。

一方、「マナー」とは「守ったほうが良い節度ある態度・礼儀作法」のことです。すなわち、「お互いが気持ち良く過ごせるための思いやり」を表しているのです。

生徒が携帯するしおりには「社会常識としてのマナー」がいくつか記載されています。

「1 見学地のマナーについて」は次のように記載されています。

- (1) 他のお客様は「静かな観察者」であることを忘れない
→言動や服装、会話の内容が観察されている
- (2) 他の見学者も旅人なり
→自分たちだけが旅をしているのではない
- (3) 人の振り見て我が振り直せ
→他人に迷惑をかけない
- (4) 郷に入っては郷に従え
→周りをよく見てその場に合った行動をとる



つまりは、尾花沢中学校関係者以外の人々の気持ちを想像することが求められています。

ここで、私の夏休み中の体験から「音」に関するマナーについて考えてみます。

夏休みに東京国立博物館の「江戸☆大奥展」と山形美術館の「古代エジプト美術館展」を観に行く機会がありました。

東京国立博物館が非常に静かで気持ちよく展示を観ることができたのに比べ、山形美術館では、携帯の着信音があちこちで鳴り響き、周囲を気にせず大声で話している人も多かったため、せっかくの古代エジプトの美術品も集中して観ることができませんでした。たまたまそのような騒々しい時間帯だったのかもしれませんが、非常に残念でなりません。

また、夏休みに東京から帰省した娘が、山形でJRに乗った時に「東京の電車で比べて、山形の高校生の声がずいぶんうるさかった」と言っていました。

スローガンに掲げられている「最幸の思い出」を創り上げるために、山形や尾花沢で暮らしているとき以上に、東京では周囲に配慮した言動が求められそうです。

それでは、明日から3日間、東京に行ってまいります。

【文責：校長 工藤雅史】